

寺
ごよみ

七 月

一日 お講・音沢

清掃奉仕

一五日夜 黒西組連続研修第一回

永代祠堂会

七月十六日から、恒例の祠堂会が勤まりますが、今年も次のような特別法要を勤修します。ご縁のある方は是非おまいり下さいますように。

一六日朝十一時 お講・中陣

昼一時 総代・白鶴会物故者法要

一七日昼一時 寺族物故者法要

夜七時半 お初夜

一八日昼一時 戦没者追弔法要

一九日昼一時 満座内陣法名法要

講話 高務哲量師

☆一六日のお講以外の日はおそめんの用意をしております。

一九日 ジャパンエキスポ富山に雪ん子劇団出演

寺 報

善 巧

発 行

〒 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 497
白雪山 善巧寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

七月十六日〜十九日

永代祠堂会

講話 高務哲量師



一年一度の祠堂会が、今年も七月十六日から十九日まで、善巧寺本堂で営まれます。祠堂会には門徒全体の法会です。そして、毎日、お説教が聞かれます。皆さん、是非おまいりになつて説教聴聞して下さい。四日間毎日お聴聞下さつたら幸甚です。お説教と云うと、年寄り相手のものと決めて了つて、敬して遠ざける若い人が多いのですが、老いも若きも私たちの生き方、本当の生き方を教えて下さる浄土真宗のお説教を、門徒全体が聞いて下さることを、心から希っている者の一人です。何よりも先ず、善巧寺に来て、祠堂会のお説教を聞いて下さる事です。お寺の説教は、限られた善男善女だけが相手ではありません。人間の生死という一大事は、老若を問わず、一切の人間にとって大切な事です。その大切なことを、直接この耳でしっかり聞かせていただく絶好の機会が祠堂会です。このお説教を聴聞させていただき、浄土真宗のみ教を味わわせてもらうことは、門徒の皆さんにとつ

お説教を聞きましょう

て、大きな幸せなのです。「誠なる哉、撰取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遅慮すること莫れ」梅原眞隆師の意識を次に掲げます。

「撰めとつて捨てないという彌陀の名号である、世にもすぐれて殊勝な本願のみのりである。ひたすら聞いて信ぜよ。決してあやぶみ疑うことがあつてはならない。」

この「ひたすら聞いて信ぜよ」というところを、お互いにもう一度味わってみましょう。とにかく私達のこの耳に聞くと云うことが、第一の事です。

聞（もん）の一字は、心をかたむけて、法を聞くことです。法を伝える言葉の一言一音がそれに耳を傾ける私達一人一人の心を通じ

て、信の世界に導くのです。浄土真宗のみ教は、説教の場に於いて、私達の心にまっすぐに伝えられるのです。その説教の場が、七月十六日から七月十九日までの四日間、善巧寺祠堂会に展開されます。是非お詣りを。

住職 雪山 俊之



五百年五十年法要記念講演 ②

行信教授

梯 實 圓 師



その願いが、四十八通りある
んでございますけれど、しかし、
この四十八通りの願いの中で一
番中心になる所がある。要にな
る所がある。それが第十八番目
に誓われた願である。これを第
十八願と呼んでおります。皆さ
んもお説教を聞かれると第十八
願と言うことを何回も聞かれる
と思います。ちょうど四十八通
りの願いの中の十八番目に誓っ
てあるから、第十八願と呼ぶん
です。この第十八願が阿彌陀さ
まのご本意、仏さまの本心がこ
こに表れている、この誓いに如

来さまは自らの命をかけていらっ
しゃる、というのでこの第十八
番目に誓われた願をこれを根本
の願というので本願とこういう
ふうに言われてきたのでござい
ます。そういうふうな四十八願
の中で、第十八願が如来のご本
意なんだと、しっかりと見抜い
て私たちに教えてくださった方
が七人いらっしゃったのでござ
いますね。龍樹菩薩、天親菩薩、
曇鸞大師、道綽禪師、善導大師、
源信和尚、法然聖人、この七人
が阿彌陀さまのご本願の中では
第十八願にその仏様の本心が表
れる、これが阿彌陀さまのご本
意だよっていうことを表してく
ださった方なんです。これを七
高僧というんです。もっと言い
かえますと、仏教にはたくさん
の高僧方が出現されたけれども
この第十八願にこそ阿彌陀さま

のご本意があるんだと言うこと
を見抜いてくださった方々は七
人しかいらっしゃらなかった。
それで、親鸞上人はこの七人を
浄土真宗伝統の祖師として仰が
れたんです。これがお正信偈に

「印度西天之論家
中夏日域之高僧
顯大聖興世正意明如来
本誓心機」

といわれるのがそのことなので
すよ。「印度西天之論家、中夏
日域の高僧、大聖興世の正意を
顯し、如来の本誓 機に應ぜる
ことを明かしたもう」と、こう
おっしゃってお釈迦さまは様々
な経説をお説きあそばしたけれ
ども御本意は第十八願の救いを
説くことにあったということ
を私どもに知らせ、阿彌陀さまの
ご本願こそ私ども凡夫にふさわ
しい救いの法であるということ
を教えてくださったのがこの七
高僧である。私はこの七人の高
僧方のみ教えに従って、阿彌陀
さまの親心を知らしていただく
ことができたんだ、こう言っ
て喜ばれているのです。私たち
もこのご開山のみ教えに従って、
阿彌陀さまのお心を味わわし
ていただくのでございます。

れた方は今申しましたようにほ
んのわずかしかなかった。例えは、
私が自分の力で、「大無量寿經」
を読ませていただき、四十八願
をよましていただいても、まず
第十八願が阿彌陀さまのご本意
を表したものだとは、とても説
み取れません。あの程度の漢文
だったら、ちょっと勉強なさっ
た方なら誰だって読めます。け
れども、仏様のご本意がどこに
あるかということを見定めるっ
ていうことはそう簡単に出来る
ものじゃないのでございます。
読めば分るというものとはちが
うんですね。

ちょっと余談になりますがね。
今からちょうど千年前、比叡山
に慈恵大師良源という方がで
られました。元三大師とも申し
ております。比叡山で一番大切
な方はいまでもなくご開山の
伝教大師最澄です。その次に大
切な方は、と言いますとこの比
叡山を中興くださった慈恵大師
良源という方なんです。比叡山
の横川へおいでになりましたら
元三大師堂というのがございま
す。その元三大師堂の裏をずー
と行きますと御廟と申しまして
この元三大師のお墓がございま
す。比叡山の聖地といわれるも
のは伝教大師最澄のお墓のある
浄土院と、この元三大師の御廟
なんです。元三大師というのは、
元日三日に亡くなったというん
で、元三大師といっています。こ
の方が、浄土の教えについて書か
れた書物があるんです。これは
「仏説観無量寿經」の注釈書で
す。「仏説観無量寿經」に九品
段という一段がございまして、
そこを註釈されたので「極楽浄
土九品往生義」という書物があ
る。この中に阿彌陀さまの四十
八願を解説していらっしゃるん
です。一つ一つの願に名前を付
け一番最初の願は無三悪趣の願
である。その次は不更悪趣の願
である。その次は、というふう
に願に名前を付けられまして
て、そして阿彌陀さまはこうい
うことを願っていらっしゃるん



だ、ということを知説をしていらつしやる。その中でこの阿彌陀さまの四十八願の中で一番中心になるのは何か、どの願が仏様のご本意であるかということの問題にしまして、それは第十九願である、とあの方はおっしゃっている。第十九願が中心だと。なんでかというところは菩提心をおこしてもろもろの行をおさめ、清らかな功徳を積んで、そして浄土へ迎えていただくという願いを起こした人は、阿彌陀さまがその人の臨終にたくさんのお聖者をひき連れて、お迎えに来てくださると書いてある。これが第十九願です。これが阿彌陀さまの本意であるといっている。なんでかといったら阿彌陀さまがわざわざ臨終に迎えて来てやろうとおっしゃっている、これは阿彌陀さまのお心になつた行者であるからだとこういうんです。そういうえばそうかいなとも思います。私は毎日日本願寺の教学研究所に行っています。私が行っても別にご門主さまは迎えに出て来られません。あたりますですよね。ただし、ご門主さまが迎えにお出になるということもあります。その人はよほどの大物でしょう。前にイギリスのエリザベス女王がおいでになった。前門さまの時代

でございましたけれども、あの時は前門さまがちゃんとお迎えになった。そしてご自身ですうとご案内なさった。ご門主がわざわざ門まで迎えに来るといのはよほど大事な賓客の場合だけです。そうしますとね、阿彌陀さまがわざわざお迎えになる、これはただ者ではない。如来さまのお心になつた人だから

ご本願のおこころ

阿彌陀さまがお迎えになるんだ。それはまず菩提心をおこしている方です。菩提心というのは自ら仏になろうという願いを起こすと同時にすべての人々を救つて仏にならめようという広大な願いを起こして、清らかな生活を送りながら、世のため人のために自ら命を投げ出してはげむ。そういうすばらしい行を積んだ人、こういう人だから仏さまのお心になう。それで仏さまが臨終にお迎えに行つてやろうとおっしゃる。これが第十九願です。だから第十九願が仏さまのご本意であるとおっしゃるんです。すると第十八願はどうなるんだという、これはたしかにものじゃないという。わずかに十べん「南無阿彌陀仏……」とお念仏した位の人だからたい

したことはない。だから阿彌陀さまがわざわざ迎えに来てやるうとは言われてないと言います。なるほどそういうわけだと十八願には臨終に迎えするとは書いてない。しかしせっかく「南無阿彌陀」といっているんだから、ほとくのはかわいそうだからせめて極楽のかたすみにも連れてつてやろうかとい

うくらいで阿彌陀さまが誓つてあるんだから阿彌陀さまのご本意と違う、こうおっしゃつて。極楽の片隅というとなんですが、程度の低い浄土のことです。仏さまのお救いというのはそれなりの功績に対してのものだから、功績のないものにはたいしたごほうびがないのは当たり前というのです。

ところが、その慈恵大師良源僧正の弟子に、源信僧都という方がおられます。「源信廣開一代教、偏帰安養勸一切」とお正信偈にいわれている源信僧都でございます。この源信僧都が「往生要集」という書物をお書きになったのですが、そのお聖教の中で、お師匠さま、慈恵大師良源の説を打ち破つてしまつた。その「往生要集」を拝読し

ますと、四十八願の中で阿彌陀さまのご本意を表された願は第十八願なんだと書いてある。四十八願の中で「念仏門において別して一願を發して曰く、乃至十念、若不生者不取正覺と誓いたまえり」とおっしゃっているんです。四十八願の中で、特別に一つの願をおこして、たとえわずかに十べんでも私の名をと覚えてくれ、そして私の国に生まれることができると思つてくれ、必ずお浄土へつれてくぞ、と特別の慈悲をこめて阿彌陀さまがお誓いくださったのが第十八願なんだ、ここに仏さまのご本意が表れているんだ。大悲の親心のすべてはこの第十八願に表れているんだ、こうおっしゃつた。これが源信僧都という方なんです。(つづく)



隆弘法師の著書 絶賛発売中

「ブツド・バイ」

— みほとけのおそばに
京都百華苑 八〇〇円
死と向き合いながらも、
生と死を明るくさらりと
語る筆者ならではの感動
の著作。

仏典劇本「観無量寿經」

— 章提希・阿闍世 —
善巧寺 一三〇〇円
東洋の悲劇の原点・王舎
城の悲劇がわかり易い芝
居に。

「煩悩カルタ本願カルタ」

百華苑 八二四円
限りなき煩悩、四十八の
ご本願を、子供でもわか
るようになさしく表現、
法事の引き出物に評判
上々。

「お茶の間説法」

百華苑 一三三六円
「続・お茶の間説法」

「続々・お茶の間説法」

一三三六円
一五四五円

寺の本堂爆笑の渦

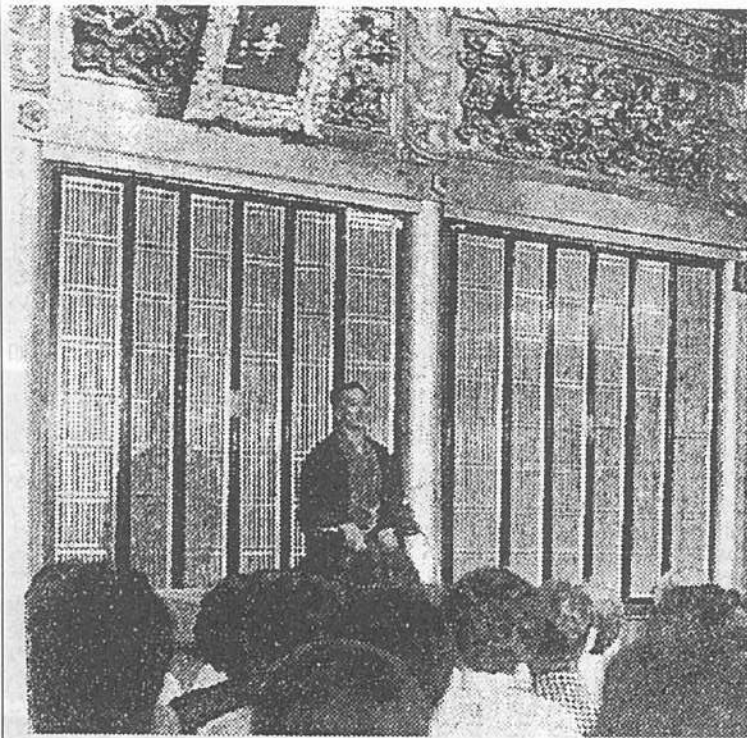
宇奈月 善巧寺で野休み落語会

お寺の本堂を会場にしたユニークな「野休み落語会」がこのほど、宇奈月町浦山の善巧寺で開かれた。

「地方に文化を。お寺で落語を」と、宇奈月夢を語る会の主催で、十四年前から毎年開催し、好評を得ている。この日も県内はもちろん、大阪や岐阜からも落語ファンが詰め掛け、本堂はぎっしり満員の盛況だった。

プロデューサー役の永六輔さんと内海好江さんが進行係を務め、各出演者を紹介した。最初に、二つ目に

一歩・入船亭扇好さんが「家見舞」を披露。次いで柳家



小三治師匠が「茶の湯」を演じ、味のある語り口としぐさで会場を爆笑の渦に巻き込んだ。

晴乃ピーチクさんの似顔絵漫談に続いて、とりの入

船亭扇橋師匠が「団子坂」を披露し、観客らは寄席の魅力を存分に味わった。

落語の名家帰り、落語家のご

法事と毎年行われている野休み落語会は六月十五日「お寺座」で開催されました。開演一時間半も前から入場者がつめかけ、開演時には満員の盛況。遠くは大阪の岸和田、貝塚や岐阜から、さらに新湊、高岡、富山、

滑川、立山、魚津、黒部、朝日、

入善、そして地元宇奈月、浦山からのお客さまも増えて、合わせて四百人。
今年の出演は、座長の永六輔さん、二つ目に昇格した入船亭扇好さん、色物は似顔絵漫談の晴乃ピーチクさん、内海好江さ

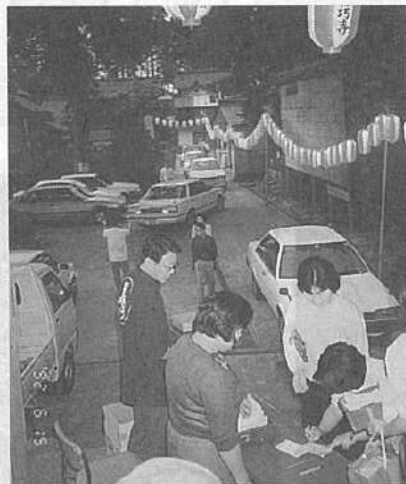
満員御礼

善巧寺落語会

野休み落語会

6月15日

第十五回
野休み落語会
平成四年六月十五日
晴
永之輔 柳家小三
内海好江 無名好
晴乃 船子 扇好



6時から続々つめかけるお客さん

んは永さんと進行役を。そして
おなじみ入船亭扇橋、柳家小三
治師匠。「ここのお客さまは質
がいいねえ」と師匠連がほめて
下さるほど場内は反応がよく、
笑って笑ってほんとに心の洗濯
でありました。あーおもしろかつ
た。



ゲスト到着



また来年



扇橋師匠、扇好さんと



内海好江さんと

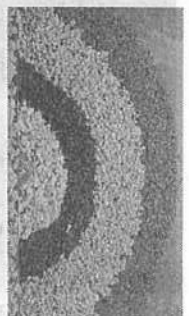
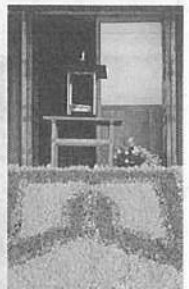


扇好さん昇格おめでとう

慶びの春 花の誕生会

小さいのち すこやかに 4/26

おしゃかさま
しんらんさま
おじいちゃんおばあちゃん
おとうさんおかあさん
ぼくもわたしも
みんな生まれた



初参りの赤ちゃん

中 佑くん 文伸子之夫妻

大藪綾子ちゃん 邦男夫妻

岡田光平くん 恵満子夫妻



祠堂経ご案内

7月16日～19日

七月十六日から四日間、永代祠堂会がつとまります。この法座は、寺を護る門徒の皆さん全員が先祖のご法事です。必ずお参りください。毎日特別法要がつとまりますのでお誘い合せください。参詣下さいように。なお案内もれの方等ございましたらお申しつけ下さい。

講師は福井の高務哲量師

高務哲量先生はこの善巧寺へはよくお越し下さって、隆弘法師の百ヶ日、門徒会館のオープンの際にもトークショーに参加して下さいましたので、ご存じの方も多かと思えます。高務先生は昭和二十七年、鹿児島島の明信寺の四男として誕生されました。五十年、慶応義塾大学文学部を卒業。同年四月行信教に入学。五十五年四月福井の千福寺に入寺されました。六年前住職を継職され、教化活動に専念、ビハラー活動などにも熱心に取り組んでおられます。

総代会・白鶴会物故者法要

七月十六日昼一時

これまで亡くなられた総代さんのご家族と現総代さん、白鶴会物故者のご家族と現白鶴会会員の方は必ずおまいりください。

寺族物故者法要

七月十七日一時

善巧寺・法輪寺・照行寺の寺族物故者の法要をつとめます。丁度隆弘師のご命日に当たります。是非お焼香を。

戦没者追弔法要

七月十八日一時

門信徒の戦没者ご遺族の方はおさそい合せお参り下さい。

内陣法名法要

七月十九日一時

例年通り、特別悲志志納者の内陣での焼香があります。十九日はジャパンエキスポ富山の「宇奈月町の日」に当たりますので、宇奈月町の方は他の日に内陣焼香なさっても結構です。このご縁に亡き方をしのびながら今生がされているこの命を見つめさせていただきます。

六月二十一日 日曜 雨のち曇

昨夜からの雨に濡れて庭全体の緑が新鮮に見える。つっかけをはいて庭に出る。紫陽花（あじさい）が美事に咲いている。私の背丈位の高さに大きな毬が五つ六つ見える。歳時記によると、紫陽花は「七変化」「四葩」の別名があり、別種に「額の花」がある。虚子の句をしるしておく。

紫陽花の花に目を経る湯治かな

会のたび花剪る今日は額を剪る

今日は日曜日。「法事は日曜に」が此の頃の習慣になって居り、今日も二つの法要がある。



住職日記

共に五月に亡くなった佛の四十九日である。十一時、富山、音沢から八名来寺。ごえはんに元氣をつけて貰うためだと言つて、オロナミン二十本を頂く。本来ならウィスキーというところだが私は酒が飲めない。亡くなった佛は三日市と宇奈月の役場前に自転車店を営んで居られた。銘石はやりの頃立派な十字石を見せて頂いたことを覚えている。本堂で、おつとめをする。午後、小雨の中を車で法事の家に向う。愛本橋を越えればもう中の口だ。途中横断

幕が張り渡されて、「愛本姫社まつり。お光大蛇行列」と書かれている。昔此の日は「御影様」といつて沢山の店が出て賑ったものだが、当節のイベントはやり、装いも新たに大蛇行列を考え出したらしい。法要の宅では、三十人ほどの方々が待ち構えていらつしやる。高齢で亡くなったおばあさんの写真が置かれている。善巧寺からの一幅の阿彌陀様の前で、観經一

巻つとめ、あとはお説教である。皆で御膳を共にして帰院。三時。今日は、寺報の原稿を書かねば

ならぬ。先号六十三号は花祭りだった、今度はもう祠堂会だ。二時間で書き上げる。今日は父の日。夕食は、にぎりずし。娘からのプレゼントを貰う。六時からラジオの前にかじりつく。巨人阪神の野球放送である。六対四で巨人の勝ち。一イニング ツウラン三発で逆転だから、巨人ファンにはこたえられぬゲームだったろう。尤も、私は、タイガースびいきの一人である。

二階へ上がり入浴、就床。梅雨入りや名所より物匂う五山杉 一校動かず梅雨に入る

寺

八月

一日 お講・石田・中新生地
九日 雪ん子庄川町招待公演

一三日 盆踊練習会
一四日 盆踊大会

一五日 夜成人を祝う会
一六日 朝十時 盆会・盆参り

一七日 雪ん子劇団合宿
一八日 雪ん子劇団合宿

二二日夜七時半 雪ん子劇団夏の定期公演
二六日 雪ん子劇団、西本願寺

高岡会館落成記念公演
一七日 隆弘法師三回忌祥月命

日、夜七時半、お初夜勉強会
☆九月はお講はありません。

寺

九月

一七日 隆弘法師三回忌祥月命
日、夜七時半、お初夜勉強会

☆九月はお講はありません。

雪ん子超多忙



上市町・北アルプス文化センター
↓KNBテレビの取材

かわいい一年生四人、五年生

一人と五人の入団生を迎えた雪ん子劇団は、毎週月曜日、和氣あいあいのムードで練習に励んでいます。今年は例年より多い十三回の公演が決まっています

がまだまだ依頼が続々とあり、うれしい悲鳴をあげています。六月は千人収容の北アルプス文化センターで上市の皆さんに楽しんでもらいましたが、七月には「JCT」への参加もあり、テレビ・新聞の取材が相次いでいます。

七月は四日に立山町民会館、十九日、ジャパンエキスポ富山、八月は、九日庄川町、二十二日夜夏の定期公演、二十六日本願寺高岡会館落成記念「仏の子どもの集い」での公演があります。

雪ん子劇団は、毎週月曜日、和氣あいあいのムードで練習に励んでいます。今年は例年より多い十三回の公演が決まっています。六月は千人収容の北アルプス文化センターで上市の皆さんに楽しんでもらいましたが、七月には「JCT」への参加もあり、テレビ・新聞の取材が相次いでいます。

宇奈月町

「雪ん子」のはつらつ演技

宇奈月町南山の勝巧寺を拠点に活動している「雪ん子劇団」の児童たちが、はつらつとした演技を披露する。同劇団は、児童劇団として表現力豊かな子供にと、同寺駐在の富山隆弘さん（故人）、鈴子さん夫妻が13年前に設立。現在、地元・南山小の児童を中心に30人の団員がいる。

エキスポ劇場では、劇団設立時からの十八番、である手話ミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」を熱演する。雪ん子さんは「新世紀博でも先輩たちが公演しており、思い出の舞台。子供たちの元気いっぱいいるところを楽しんでもらいた」と話している。



総代会・白鶴会の動き

五月七日

富山本願寺本堂に於て富山教区仏教婦人会連盟総会、第五回富山教区仏教婦人の集いが開催されました。善巧寺白鶴会から神子久美、菊池れい、田中まつゑ子、櫻初枝、北川トキエ（敬称略）の五名が出席。久堀弘義先生の記念講演を聴聞しました。



六月十三日

富山教区門徒総代会総会は富山本願寺に於て行われ、鬼原勝次、野島重一（敬称略）の二名が参加。巖宝雲師の講話の後、富山別院問題に関する経過報告がありました。

六月二十二日

仏教婦人会幹部研修会が富山本願寺で行われ、高島祥子、菊池れい、本波ときあ、大藪富美子、櫻初枝、大藪トキエ（敬称略）が参加。鳥羽隼子師の講義と結婚における差別問題をあつかったフィルム「ふれあいの門」上映のあと、他仏婦の方々との話し合いがありました。

およろこびの方々

法輪寺・高島さんの長女ひとみさんの挙式は九月一日、善巧寺本堂で行われます。お相手は富山西武に勤務する二十七歳の滝澤康彦さん。御本人のご紹介と挙式の模様は次号で。御期待ください。

愛本新の野崎吉郎さんは、四期にわたって宇奈月町長を務め地方自治の伸展に尽力され、勲五等双光旭日章をうけられました。

生地の橋新作さんは、四十四年にわたって、富山県保健衛生組織連合副会長などをして、伝染病予防や生活環境の整備、保健衛生行政に尽力され、勲六等単光旭日章をうけられました。

黒西組第一期連研スタート

我が宗門では「念佛者の姿は自己の問題を法に問い、法を聞き、法を味わっていく」となみの中にこそある。僧侶、門徒の立場をこえて、会員による開法伝道をしていくことが大切である」との願いのもとに、連統研修（連研）が実施されています。黒西組でも本年より開催されることになりました。第一回は、善巧寺で七月十五日午後七時半より行われます。

合 掌

あじさいの季節になりました。隆弘法師の植えていった紫陽花がその数を増しています。師の著書、ビデオ等がますます活躍する今、師の還相回向を目の当たりにする思いです。

昨年五月に放映されたKNBテレビの「さよならの贈り物」が、親の目子の目一年間五十一作品のうちのベスト5に選ばれ、奨励賞をうけたとか。ディレクターの金沢敏子さんおめでとう。

「雪山さんの曲がききたい」と柳家小三治さん、隆弘法師の書斎に上がつて見つけて下さった曲が、ミッシャー・マイスキーの演奏によるバッハのチェロ・ソナタ。この一年間、こちらが探し求めていた曲でした。この時、にっこり寄りそう夫婦の写真を見て小三治さんがぼろっと一言、「こんな幸せそうな顔、オレはしたことがねえよ、くやしいね」と。

